

## 「アトムのいない水の世紀に」

21世紀は、「水の世紀」とも「環境の世紀」とも言われています。水の問題をめぐって、戦争が起こると予測する人もいるほどです。それだけ、水や環境の問題が深刻化しており、国際的な関心事となっているのです。今年7月に開催される北海道洞爺湖サミットの主要テーマも、地球温暖化を中心とした環境問題です。

40数年前、小さいころの私が夢見ていた21世紀という未来は、超高層のビルが建ち並び、高速道路が縦横に走り、空飛ぶ自動車が滑空していました。当時のアニメ「鉄腕アトム」(原作では2003年生まれ)で描かれていたように、科学技術の発達により、便利で快適で、みんなが豊かで幸せな世界を21世紀として子ども心に思い描いていたように思います。

しかし、現実の世界はそうはなりません。科学技術の進歩は必ずしも人々の幸福には結びついておらず、開発行為や生産活動により、経済的な豊かさを手にした反面で環境の汚染や地球温暖化の問題などが顕在化してきました。アニメの中では、鉄腕アトムが宇宙の外敵から地球の平和を守ってくれていましたが、現実には、「石油の世紀」、「戦争の世紀」といわれた20世紀に始まった大量生産、大量消費、大量廃棄の生活を人類自らが拡大してきた結果、資源の枯渇と環境の破壊によって、自らの生存の基盤まで脅かされるようになったと言ってしまうのでしょうか。今、私たちには、持続可能な資源開発や循環型の資源利用を基本とするライフスタイルへの転換が求められていることは、多くの識者が指摘しているところです。

こうした中で重要な要因となるのが水環境の問題だと言われています。昔から少雨の気候とその地形ゆえに、水不足に悩まされ、ため池が数多く存在する本市にとっても、改めてこれからの水との付き合い方を徹底的に考察していくことが、非常に重要となっています。そのようなことから、先日、本市出身で我が国の環境経済学のパイオニアである植田和弘京都大学教授に会長をお願いして「高松水環境会議」を立ち上げました。

鉄腕アトムが街や地球を守ってくれるわけではありません。自分たちで考え、行動するしかないのです。水の世紀に、本市が持続可能性をより高めるようなまちづくりをしていくにはどうしたらいいのか、水環境の面から大いに議論していただき、示唆に富んだご提言をいただきたいと思っています。